



# 学校だより5月号

令和4年4月28日  
横浜市立六つ川小学校  
ホームページ

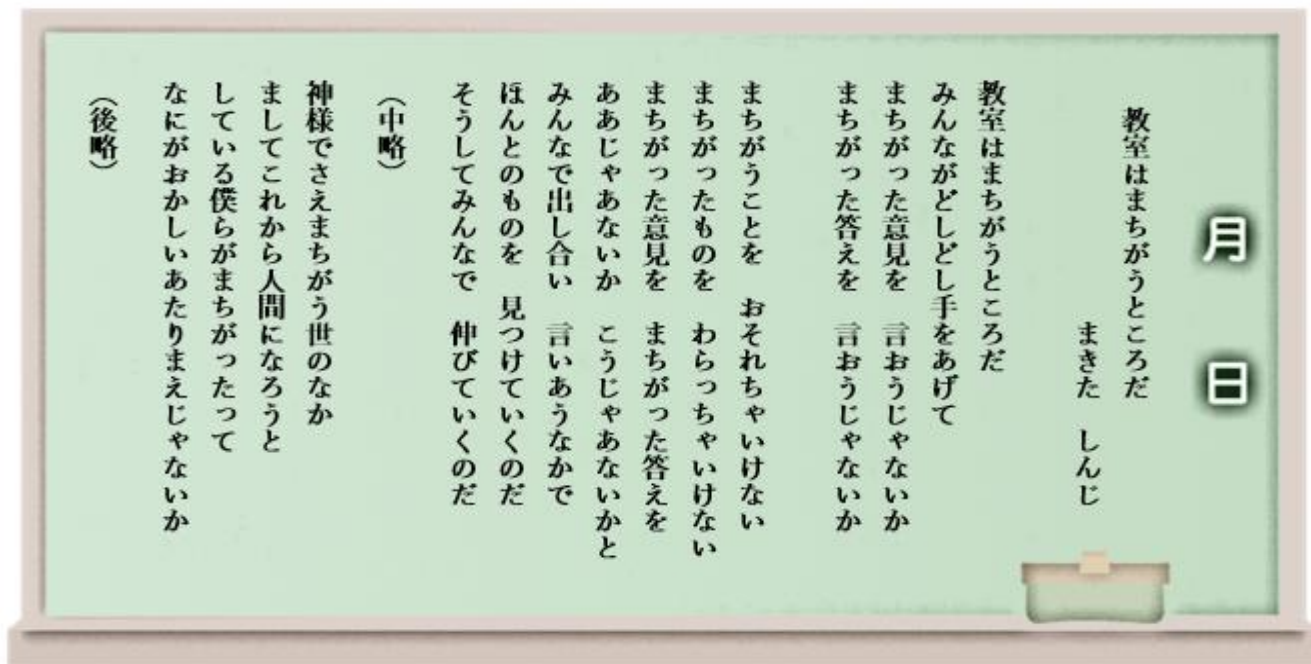
<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawa/>

学校教育目標

**みんなでチャレンジ 六つ川の子**  
(地域を愛し、主体的に考え行動する人を育てます。)

## 学校は間違いから学ぶ場

校長 妹尾 正彦



これは、私が担任時代に必ず最初に子どもたちに話した蒔田晋治さんの詩です。

最初から、全てを完璧にできる人などいません。特に学齢期の子どもたちは、できないこと、わからないことだらけです。だから学校に通うのです。学校に通い、様々な人たちと生活する中で、多くの間違いをし、そこでの反省を経て、多くのことを学び、正しい方向へ成長をしていきます。学校(教室)は、子どもたちが間違いをする場所なのです。

ただ、ここで大切なことは、その間違いをしっかりと反省させて次に活かさせることです。上の詩で言えば、「ほんとのものを見つけていくのだ」という部分です。まずは、子どもたち自身に間違いをしっかりと認識させること、なぜ間違いなのか、どこが間違いなのか、その間違いの理由等まで理解させることが必要です。その上で、周囲への影響などがあつたならば、その人たちに対して謝罪や感謝を伝えることまでできれば、その間違いを確実に次に活かすことができ、子どもの成長に繋がるはずです。

なかなか素直に間違いを認めることができない子どもたちもいます。そのままだと、成長のチャンスである間違いを活かすことができない上に、正しい判断力や感情のコントロール力も育たなくなってしまいます。私たち大人は、子どもたちの間違いは責めるのではなく、自分の間違いを素直に認められたこと・反省できたことを評価し、逆に間違いをごまかしたり、隠そうとすることにはしっかりと指導していかなければなりません。

昔、指導した生徒から「これまでの先輩もやっていたのに、僕だけ怒られるのは不公平だ。」と言われたことがあります。生徒に「自分の間違いへの反省を十分にさせられていない」という自らの指導を反省すると共に、再度丁寧に指導をし直したこと、そしてその再指導の中で、その子にこう話したことを覚えています。

「僕は、間違つたことをやっていたのに見つけて指導してあげられなかつた先輩たちに対して申し訳なく思う。

先輩達が成長するチャンスを逃させてしまったから。君は、ここで自分がやってしまった間違いをしっかりと反省できれば、大きく成長できる。そういう意味では、見つけた君は良かったんじゃないかな。」